
未来シミュレーション

DIOrennji

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

未来シミュレーション

【著者名】

Z0282BA

【あらすじ】

僕こと住友心愛はとある事情で『変化』が嫌いだった。周りに気を使い、平均を目指し、善人でいる毎日。しかしある何気ない日、いつものようにパソコンを開いてみると、一般的にギャルゲと呼ばれるようなシミュレーションゲームのデータが、導かれるように起動してみると、実はただのゲームではなく、僕を主人公としたリアルと全く同じ設定のゲームだった…。

事件に巻き込まれ、もしもゲームで真実を見つければトゥルーエンドに到達出来なければ、待つのは“死”というバッドエンド達。

僕はただ、変化のない普通が欲しかつただけなのに。気分と
その場のノリで書いてるので、更新はランダムで文章の長さにばら
つきがあります。

未来の事件（前書き）

微弱のグロあります。

未来の事件

「う、嘘だ…！？」

僕は目の前にある“ソレ”を見てしまった。赤色のトマトジュースにしてはぬめりのある液体を撒き散らし、辺りの温度を一段と下げている物。

死体。それも先程まで生きていた。

「ツ　　お、えええ」

普段からこいついう絵に馴れていた。つまりゲーム脳のお陰で容易に理解出来てしまつた僕は、实物を前にして嘔吐しかける。

死体に驚いたというのもあつたし、様々な感情が渦巻いたというのもあつたけれど、単純に。

グロテスクすぎる。

どうして僕は、こんな事に巻き込まれたのだろうか。全ては、アレが来てからおかしくなつた。

リアル

桜田心愛。それが僕の名前。

女の子のような名前だったので、小さな頃はよくいじめられたりと苦労した。

その頃に、どうしてこんな名前にしたんだと両親に聞いてみたら。

「心の底から人を愛せる人になつて欲しいから」

といつも安直すぎる由来に、子どもながら苦笑いをしたのを覚えている。

そんな一種の思い出を振り返りつつ、いつも通り放課後を迎えた教室で、自分の席で座つていると。

「心愛ーー！」

僕の名前を呼ぶ声が、一時的に騒がしくなっている周りの雑音の中聞こえた。一周するように見渡してみると、ある少女がこちらに近づいて来ている。

「質桜さん、どうしたの？」

嬉しそうにせつて来た少女に、僕も笑顔を向けながら聞いてみる。
彼女は質桜心亜。僕とは下の名前が同じ友達だ。

「やつたよ心愛ーー　ついにあのゲームをクリアしたのーー」
「うん、おめでとう」

眼を輝かせながら息を荒げる質桜さん。

彼女とは高校に入る以前からの友達で、よくこうしてゲームやアニメなどを話したりする。

「ぐうー、辛かつた！！　強かつた！！　半端じゃなかつた！！」

右手に握りこぶしを作り、グッと堪える質桜さん。楽しそうだなあ

…。

「幾多の苦労を乗り越え、私はクリアした！！」

「おー」

ふふふ。とドヤ顔で佇む。

「そろそろ帰るつか

僕がそう切り出すと、質桜さんはいつもの表情に戻つて。

「やうね

と語ってくれるのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0282ba/>

未来シミュレーション

2011年12月31日19時52分発行